

令和5年度 事業所自己評価結果の公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

公表：令和6年3月29日 / アンケート期間：令和6年2月5日～令和6年2月20日 / 回答者数（児童数）11名

チェック項目			はい	どちらとも いえない	いいえ
環境・ 体制 整備	1	職員の配置人数や専門性は適切であると感じられますか。	11		
	2	日々の活動や支援のためのスペースは十分に確保されていると感じられますか。	10	1	
	3	保育・生活空間は、本人にわかりやすく構造化しているなど子どもたちの活動に合わせた環境になっていますか。	11		
	4	保育・生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていますか。	11		

チェック項目			はい	どちらとも いえない	いいえ
適切 な 支 援 の 提 供	5	お子さまと保護者さまのニーズや課題が客観的に分析された上で個別支援計画が作成されていますか。	11		
	6	個別支援計画に沿った支援が行われていると感じられますか。	11		
	7	活動プログラムが固定化しないよう工夫されていますか。	11		
	8	保育所や幼稚園、他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所等との連携した支援が行われる機会がありますか。	7	2	4

チェック項目			はい	どちらとも いえない	いいえ
保 護 者 へ の 説 明 等	9	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされましたか。	11		
	10	日頃からお子さまの状況を保護者さまと伝え合い、健康面や発達の状況、課題について共通理解ができていますか。	11		
	11	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われていますか。	11		
	12	行事の開催などを通じて保護者同士の交流・連携が支援されていますか。	9	2	
	13	お子さまや保護者さまとの意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていますか。	9	2	
	14	定期的に活動内容や行事予定、連絡体制等のお知らせ情報が発信されていますか。	10	1	
	15	個人情報の取り扱いに十分注意されていると感じられますか。	10	1	

チェック項目			はい	どちらとも いえない	いいえ
非 常 時 対 応	16	防犯対策、感染症予防、非常災害時の対応方法について、保護者さまに周知・説明されていますか。	11		
	17	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われていますか。	10	1	

チェック項目			はい	どちらとも いえない	いいえ
満 足 度	18	お子さまは通所を楽しみにしていると感じられます	11		
	19	事業所の支援に満足していますか。	11		

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

令和5年度 事業所自己評価結果の公表

事業所における自己評価結果および改善内容・改善目標

公表：令和6年3月29日 / 回答者数（職員数）6名

チェック項目			はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	職員の配置人数は適切である。	5		・活動内容や子供たちの様子により、棚を移動して空間を調節したり、パーテーションで区切ったりして分かりやすい・落ち着ける等ができるようになっていると思います。 ・子どもたちが遊ぶ環境は、パーテーションを使用して、こどもの様子、体調に合わせて個別に対応している。 ・毎日の掃除、消毒を欠かさず行い、清潔な環境を保っている。トイレは汚れたら都度掃除、消毒を行なっている。 ・活動の内容に合わせて、部屋のレイアウトを変えている。導線や動きを考えている。 ・自由遊びのスペースが狭い時には個別スペースを作り子どもが遊びやすい部屋の広さを確保できるようにしている。 ・柔軟なシフト変更、5S 状況に応じた空間設定	・頻繁に使用する棚の扉や玩具箱が壊れやすい為、安全面を考えると棚や玩具箱は頑丈な物に取り替えていきたい。 ・棚の上に物を置かないように意識したい。
	2	日々の活動や支援のためのスペースは十分に確保されている。	5			
	3	保育・生活空間は、本人にわかりやすく構造化しているなど子どもたちの活動に合わせた環境になっている。	5			
	4	保育・生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。	5			
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画できている。	5		・日頃からスタッフ間で業務についての声かけが行われています。 ・業務日報に細かく子どもの様子や活動の振り返り、ヒヤリハットを共有している。 ・子どもの降園後にその日の子どもの様子、対応の仕方などを話し合い次回に活かしている。	・研修の機会をもっと増やしたい。職員会議で事例検討など取り入れたい。
	6	職員の資質の向上を行うために、定期的に研修を行なっている。	4	1		

チェック項目			はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	7	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画が作成されている。	5		・上長にいつでも相談できるような雰囲気作りがされているため、不明点を気軽に聞くことができる。 ・計画を立てる時にその子にとってという視点で考えている。職員間で話し合っている。 ・活動内容によってメンバリングを変えている。 ・都度その日にあった子どもの成長、課題点などを共有するようにして日々適切な支援ができるよう話し合っている。	・製作やゲームの活動などもっと手厚く関われると良いと思う場面がある。 ・スタッフ全員が把握できているかわからない場面もあるため、都度スタッフ全員で意見を共有することや、支援計画に目を通す機会をより増やせたらと思います。
	8	個別支援計画に沿った支援が行われている。	5			
	9	活動プログラムの立案をチームで行っている。	5			
	10	活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	5			
	11	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる活動プログラムや個別支援計画に反映している。	5			
	12	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。	5			
	13	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。	5			
	14	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている。	5			
	15	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している。	5			

関係機関連携	16	地域の母子保健や子ども・子育て支援等の関係機関（区役所等）と連携した支援を行っている。	5		・各関係機関に、お子さんの様子をお伝えしたり関係者の来園に対応しています。 ・連携する機会があれば、密に情報を共有したり、お互いの教室や園見学などを行っている。小学校へは引き継ぎ書を作成している。 ・保育園などへ訪問をし、その子どもの保育園等などでの様子を確認したり電話で様子を伝え合うなどしている。卒業児には引き継ぎ書を書いている。	・連携する機会はまだまだ足りないと感じている。もっと増やしていきたい。 ・それぞれの施設での子どもの様子を共有しやすい環境を作れるといいと思います。
	17	移行支援として、保育所や幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	5			
	18	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	5			
	19	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、支援に活かしている。	5			

チェック項目			はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明等	20	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		・保護者の方からの要望等にも丁寧に返答できていると思います。 ・個人情報について高い意識で取り扱っている。専用アプリを通して様子を細かく伝えている。 ・その日の子どもの様子など、何ができていたかどこが難しかったかをお伝えしている。	・引き続き、丁寧な対応を心がける。
	21	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、健康面や発達の状況、課題について共通理解ができている。	5			
	22	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。	5			
	23	行事の開催などを通じて保護者同士の交流・連携を支援している。	5			
	24	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている。	5			
	25	定期的に活動内容や行事予定、連絡体制等のお知らせ情報を発信している。	5			
	26	個人情報の取扱いに十分注意している。	5			

チェック項目			はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	27	防犯対策、感染症予防、非常災害時の対応方法について、職員間で共有し、保護者さまに周知・説明している。	5		・食物アレルギーのお子さんの対応については、実際に練習キットを使い職員全員で訓練を行いました。 ・こども達と共に定期的に訓練を行いスタッフ間で対処の仕方を共有している。 ・避難訓練を毎月行い、どの災害や場面でも対応できるよう経験している。食物アレルギー児の対応について、保護者と面談を行い、対応方法をマニュアル化した。エビペンもスタッフ全員わかるように保管している。 ・毎月の防災訓練、職員会議で非常時の対処法の確認を行なっている。避難経路や、消化対応の仕方など。アレルギーに関しては、エビペンの使い方などをスタッフみんなで確認をおこなった。	・気を緩めないよう引き続き定期的に訓練を行う ・具体的に、不審者が入った場合にはスタッフがどんなに役割りをするのか、感染症の嘔吐があった場合にのスタッフの動きはどうか、等より詳しく決めていきたい。 ・いざ災害が来た時に動けるよう、マニュアルなどいつも手元に持って、確認しながら対応できるようにしたい。
	28	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。	5			
	29	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している。	5			
	30	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている。	5			
	31	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している。	5			

事業所内での分析	分析結果を踏まえた改善目標の設定
（保護者評価・事業所評価のずれ・共通点の分析） ・環境、体制整備・非常時の対応の部分は、差異なく職員の配置や環境に対してははいの回答が多かった。 ・適切な支援の提供・・・保育所や幼稚園、他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所との連携した支援が行われている機会があるか？の問いについては差異があり、保護者からの意見がどちらとも言えない、いいえと感じる方もいた。 ・保護者への説明等の部分で、保護者様からどちらとも言えないとの意見があった。 ・満足度が、保護者様の中で高いと感じられてよかった。	○保護者への説明等での改善目標 ・個人情報の扱いに今以上に気をつける（給食、午睡のボードを見せないようにより配慮して伝える）名前などが、わからないように徹底していく。 ・定期的な活動内容の発信について・・・保護者に見学をしてもらう機会を設ける。（活動の様子、給食の様子など見たい場面を伺っておき、実際にどのような様子なのか）など見ていただく機会を作るなども検討していきたい。